ページをまたぐ罫線囲み

emathBk.sty ver.0.23

 tDB

2005/09/19

概要

eclbkbox.sty で定義されている , 複数ページにわたる囲み枠を作る breakbox 環境のバリ エーションを作ってみました。

解答部を二段組にして,右側に注釈をつけるスタイルを emathAt.sty で実現していますが,そ れを置き換えることを狙っています。 このマクロ集のマクロについてのご質問,バグ報告,修正・追加の提案等は

http://emath.s40.xrea.com/

の掲示板へどうぞ。

目 次

1	ペー	-ジをまたぐ囲み (1) 見出し無	1
	1.1	本家 — breakbox 環境	1
	1.2	EMbreakbox 環境	2
		1.2.1 <hsep=,vsep=>オプション</hsep=,vsep=>	3
		1.2.2 背景色の指定	4
		1.2.3 枠線色の指定	6
	1.3	枠線を点線に — breakDbox 環境	7
	1.4	二重罫線枠 —bkdblbox 環境	9
	1.5		10
	1.6	影つき – bkshadebox 環境	11
	1.7		12
2	ペー	- ジをまたぐ囲み (2) 見出し有	12
	2.1	見出し付き四角囲み — breakitemsquarebox 環境	12
	2.2	見出し付き丸囲み – breakitembox 環境	12
3	左 /	右の罫線のみを引く	12
	3.1	左右に罫線 — breakLRline 環境	12
	3.2	右にのみ罫線 — breakRline 環境	14
	3.3	左にのみ罫線 — breakLline 環境	15
		3.3.1 [headline] オプション	16
4	左右		19
	4.1	右欄外に注釈 — ¥MigiRangai	19
	4.2	<u> </u>	20
	4.3	行頭にマーク — ¥Gyoutou	21
	4.4	欄外注,縦位置の調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
5		. – ,,,,,,,,	23
	5.1	tyuukai 環境と¥tyuu コマンド	
	5.2		24
	5.3		25
	5.4		26
	5.5		28
	5.6		28
	5.7	¥tyuu と数式番号 , ラベル	29
		·	
		,	29
		5.7.2 ¥tyuuと ¥atag の同居	30
		5.7.2 ¥tyuuと¥atagの同居	30 31
	5.8	5.7.2 ¥tyuuと¥atagの同居	30 31 32
	5.9	5.7.2 ¥tyuu と ¥atag の同居	30 31

1 ページをまたぐ囲み(1) 見出し無

1.1 本家 — breakbox 環境

まずは,本家 eclbkbox.sty で定義されている breakbox 環境の使用例を見ておきます。(ソースリストは $\exp(0.1)$ tex です。)

eclbkbox.sty で定義されている breakbox 環境は , テキストを四角の罫線ボックスで囲む環境ですが , ページをまたぐことが出来るのが特徴です。

ああああああああああああああああああああああああああああ

1.2 EMbreakbox 環境

もともとの breakbox 環境に修正を加えるため, EMbreakbox 環境を新設しました。基本的には, ほとんど breakbox 環境そのものですが, ¥parindent は 1zw としてあります。

ソースリストは ex25.tex

ああああああああああああ

1.2.1 <hsep=..,vsep=..>オプション

枠罫線と本文との間隔は ¥fboxsep となっていますが,これをいじると,¥fbox などを本文で使用したときも影響してしまいます。また,上下と左右で空きを異なる値に設定したいときもあります。そこで,上下の空きを設定する<vsep=..>オプション,左右の空きを設定する<hsep=..>オプションをつけました。下のリストは

\text{Ybegin{EMbreakbox}<hsep=2zw,vsep=1zh>}

としてあります。

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

 ソースリストは ex26.tex

¥fboxsep はデフォルトのまま

1.2.2 背景色の指定

囲みの中の背景色を指定するためのオプションが<backgroundcolor=..>です。下のリストでは

ソースリストは ex27.tex

\text{Ybegin{EMbreakbox}<backgroundcolor=cyan>

としてあります。

(注)¥color のネストがどうなるかは,環境依存でしょうか。 下のリストは,上のリストの中に

\fcolorbox{red}{yellow}{ABC}

を入れ子にしています。

ソースリストは ex28.tex

ここで

います

¥fcolorbox{red}{yel を入れ子にして

1.2.3 枠線色の指定

囲みにおける枠の色を指定するためのオプションが<framecolor=..>です。下のリストでは

\text{Ybegin{EMbreakbox}<framecolor=red,backgroundcolor=lightgray>}

としてあります。

ソースリストは ex29.tex

6

ううううううううううううううううううううううううううううううううううううう

1.3 枠線を点線に — break Dbox 環境

枠線を点線にした breakDbox 環境です。ただし,この環境は multido.sty で定義されている ¥multidoを用いています。

breakDobx 環境は, 枠線を点線などに変えるための環境です。

ソースリストは ex02.tex です。

枠線と中のテキストとの間隔は [fboxsep=...] オプションで指定します。次の例は

\text{Ybegin{breakDbox}[fboxsep=10pt]}

としています。

 ソースリストは ex03.tex です。

1.4 二重罫線枠 —bkdblbox 環境

ページをまたぐ二重罫線枠囲みです。

ソースリストは ex22.tex です。

itembbox.sty で定義されている dblbox とは次の点で異なっています。

- 1. 外枠の太さが 2pt と太めになっています。
- 2. 枠線は,dblbox 環境が ¥hrule, ¥vrule で引いているのに対し,bkdblbox 環境では,tpic specials で描画しています。
- 3. dblbox 環境はページをまたぐことができませんが, bkdblbox 環境はページをまたぐことができます。(ただし,ページをまたぐという前提ですから,中身が1行だけという状況は許容しません。)

書式 bkdblbox 環境の書式です。

\text{Ybegin{bkdblbox}[#1]

#1: key=val

内側罫線とテキスト部との間隔をつかさどるオプション

fboxsep=..(デフォルト値=¥fboxsep)

hsep=...(デフォルト値=¥fboxsep)

vsep=...(デフォルト値=\fboxsep)

罫線の太さ,間隔をつかさどるオプション

fboxruleA=... 外枠罫線の太さ(デフォルト値=2pt)

fboxruleB=... 内枠罫線の太さ(デフォルト値=¥fboxrule)

fboxruleG=... 外枠罫線と内枠罫線の距離(デフォルト値=2pt)

右辺値はすべて,単位を伴う数値です。

1.5 丸二重罫線枠 — bkdblovalbox 環境

四隅を丸くしたのが bkdblovalbox 環境です。

ソースリストは ex23.tex です。

この環境では,内側罫線と文字ブロックとの間隔のデフォルト値は

上下が 1zh 左右が 1zw

となっています。

さらに,四隅の楕円を描画するのにemathPp.sty,すなわちperlとの連携機能を用います。

1.6 影つき – bkshadebox 環境

ascmac.sty で定義されている shadebox 環境をページがまたげるようにしたものです。

ソースリストは ex24.tex です。

1.7 丸囲み – breakitembox 環境

四隅が丸い囲みです。本来は見出しをつけるためのものですが,見出しとして空文字列を与えれば,見出しなしの囲みも作れます。

ただし,この環境はitembkbx.styで定義されていますから,itembkbx.texをご覧ください。

2 ページをまたぐ囲み(2) 見出し有

2.1 見出し付き四角囲み — breakitemsquarebox 環境

四角囲みで,見出しを上辺・下辺につけることができ,ページをまたぎます。 ただし,この環境はitembkbx.styで定義されていますから,itembkbx.texをご覧ください。

2.2 見出し付き丸囲み – breakitembox 環境

丸囲みで,見出しを上辺・下辺につけることができ,ページをまたぎます。 ただし,この環境はitembkbx.styで定義されていますから,itembkbx.texをご覧ください。

3 左/右の罫線のみを引く

3.1 左右に罫線 — breakLRline 環境

罫線枠の上辺・下辺は引かず,左右のみを引きます。欄外に注釈をつけることを狙っています。

ソースリストは ex04.tex です。

うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううう

線種は,デフォルトでは実線ですが,点線にしたければ

[sensyu=\text{Yemcdottedline}]

などとオプションをつけます。ただし ,\text{Yemcdottedline は , multido.sty で定義されている \text{\text{Ymultido}}} を用いています。

 ソースリストは ex05.tex です。

ううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううう

3.2 右にのみ罫線 — breakRline 環境

右罫線のみをつけるのが breakRline 環境です。

 ソースリストは ex06.tex です。

うううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううう

実例はつけませんが.

[sensyu=\text{Yemcdottedline}]

オプションも有効です。

3.3 左にのみ罫線 — breakLline 環境

左罫線のみをつけるのが breakLline 環境です。

ソースリストは ex07.tex です。

ううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううう

[sensyu=....]

オプションが有効なのは言うまでもありません。

3.3.1 [headline] オプション

この左罫線を先頭行だけ引きたくない,というご要望がありました。そのため,[headline] オプションを新設しました。

まずは, breakLline 環境のデフォルト状態を見ておきます。

— breakLline —

¥begin{breakLline}

デフォルトの

¥textsf{breakLline}環境

環境内のブロックに左縦罫線を引きます。

このブロックはページをまたぐことができる のが特徴です。

\text{end{breakLline}

¥smallskip

デフォルトの breakLline 環境です。 環境内のブロックに左縦罫線を引き ます。

このブロックはページをまた*ぐ*こ とができるのが特徴です。

breakLline 環境において,先頭行には左罫線を引かないためのオプション [headline=..] を導入しました。

- [headline] オプション —

¥begin{breakLline}%

[parindent=Opt,headline]

¥textgt{¥inhibitglue 【見出し】}

先頭行のみ,

左罫線を切るためのオプションが

¥begin{jquote}

¥begin{verbatim}

[headline]

¥end{verbatim}

¥end{jquote}

です。あわせて,この段落は

インデントをつけたくないので

¥begin{jquote}

¥begin{verbatim}

[parindent=0pt]

¥end{verbatim}

¥end{jquote}

を併用しています。\\

(左のリストの先頭2行を

ご覧ください。)

¥parindent=1zw¥relax

第2段落以降は左インデントをつける

とすれば,第2段落先頭に

¥begin{jquote}

¥begin{verbatim}

¥parindent=1zw

¥end{verbatim}

¥end{jquote}

などとする必要があります。

¥end{breakLline}

¥smallskip

【見出し】先頭行のみ,左罫線を切る ためのオプションが

[headline]

です。あわせて,この段落はインデ ントをつけたくないので

[parindent=0pt]

を併用しています。

(左のリストの先頭2行をご覧ください。)

第2段落以降は左インデントをつけるとすれば,第2段落先頭に

¥parindent=1zw

などとする必要があります。

[headline] オプションは,[headline=1] などと,右辺値を指定するのが本来の使い方ですが,1 の場合に限って省略可能としてあります。

右辺値が1でない使い方の例をご覧ください。

[headline=..] オプション -

¥begin{breakLline}%

[parindent=0pt,headline=2]

¥begin{mawarikomi}[1]%

{2.5zw}{\text{\text{\text{\text{Huge}}}}}

段落先頭の文字(列)を大きくして 強調するスタイルを日本語化したものに

¥textsf{egdrop.sty}がありますが,

¥textsf{breakLline}環境とは相性が悪いようです。

¥end{mawarikomi}

¥parindent=1zw¥relax

ここでは, \textsf{mawarikomi}環境の左配置を用いて,

擬似的に実現しています。

¥end{breakLline}

¥smallskip

段落先頭の文字(列)を大き くして強調するスタイルを日本語化したものに egdrop.sty がありますが, breakLline 環境とは相性が悪いようです。

ここでは , mawarikomi 環境の左配 置を用いて , 擬似的に実現していま す。

4 左右欄外に注釈

4.1 右欄外に注釈 — ¥MigiRangai

breakbox 環境はページをまたぐことができるのはありがたいのですが, ¥marginpar コマンドは使用できません。

そこで ¥marginpar もどきを作ろう,ということです。

- 注 1) ¥MigiRangai の引数は, ¥parbox に渡されますから, 長い注釈は折り返されます。
- 注 2) ¥MigiRangai は,浮動体ではありませんから,2つの注が重なっても移動されません。(重なったままです。それを移動するのはソースリスト上で工夫しなければなりません。)

ソースリストは ex08.tex です。

右注です。右注で す。右注です。右 注です。

ウウウウウウウウ ウウウウウウウウ ウ

左欄外に注をつける ¥HidariRangai もあります。

4.2 左欄外に注釈 — ¥HidariRangai

ソースリストは ex09.tex です。

左注です。左注で す。左注です。左 注 で す。左 注 で

うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううう

4.3 行頭にマーク — ¥Gyoutou

¥Hidarirangai でつけられる注釈は、左詰になります。簡単なマークの場合、右詰で置きたいことがあります。そのためのコマンドが¥gyoutouです。これは必ずしも段落の始めに置く必要はありません。段落の途中で発行してもその行の行頭に置かれます。

ソースリストは ex10.tex です。

 \P

うううううううううううううううううううううううううううううううう gyoutou{\$\dagger\$}を発行します。ううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう ううううううううううううううううううううううううううううううううううう うううううううううううううううううううう

4.4 欄外注,縦位置の調整

†

数式が登場する行などでは,右注の縦位置がずれることがあります。そのようなときは<...>オプションで縦位置を調整します。

右注

調整右注

- 注1) <..>オプションの数値(単位付)が正のときは下に,負のときは上に移動します。
- 注 2) このオプションは \text{\text{\text{HidariRangai}, \text{\text{\text{\text{YMigiRangai}, \text{\tinte\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\ti}\text{\texi}\text{\text{\text{\texit}\text{\text{\texi}\text{\text{\text{\text{\texi}\text{\text{\tet

5 解答を二段組に

emathAt.sty で,解答を二段組にする試みをしていますが,そこでは,解答本文と右注釈部を仕切る縦罫線がページをまたぐことができませんでした。

それを可能としたのが emathBk.sty です。

5.1 tyuukai 環境と ¥tyuu コマンド

問題の解答部分を 2 段組にして , 左側に解答を , 右側に注釈を付けるための tyuukai 環境と , 注釈を付ける ¥tyuu コマンドです。

下の例は , emathAt.sty のものとほとんど同じですが , ページをまたぐことができます。(ソースリストは , $\exp(2.tex)$

- 問題 -

【解答】解答部分は tyuukai 環境内に記述します。そこでは , 右側一部が注釈のための領域となります。

ここで注釈をつけてみます。解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答

← 注釈領域です。注釈を付けるには、

は、

、¥tyuu コマンドを用います。

解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答ページをまたいだところでもう一度注釈をつけて みます。解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解 答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答 解答解答解答解答解答解答解答解答解答解答

← 注釈領域です。注釈を付けるには、
¥tyuu コマンドを用います。

5.2 注釈領域の横幅指定

注釈領域の横幅はデフォルトでは \pm textwidth の 3/10 となっています。これを変更するには , emathAt.sty の内部変数 \pm tyuuhaba に単位付きの長さを指定します。

例:\frac{\text{Ytyuuhaba=8zw}}{}

- 問題 -

そこでは,右側一部が注釈のための領域となります。ここでは ¥tyuuhaba=8zwとして注釈領域の横幅を制限しています。

注釈領域です。注 釈を付けるには, ¥tyuu コマンド を用います。

5.3 注釈文,表示位置の微調整

数式行は改行ピッチなどが通常の文と異なるため、注釈文の位置に不満が出ることがあります。

------ 問題 ---

← 右注

という例では,注釈文の位置を上にずらしたくなります。これを実現するのが¥tyuuの<...>オプションです。下の例では¥tyuu<-.4¥baselineskip>{...}として,注釈文を上方に.4¥baselineskip上げています。

問題 -

5.4 mawarikomi 環境との併用

解答の中で mawarikomi 環境を使用し,その中で注釈をつけるのは emathAt.sty では面倒でしたが, emathBk.sty では ¥tyuu コマンドはそのまま使用可能です。

------ 問題 ---



← mawarikomi 環境内の注釈です

りこみまわりこみまわりこみまわりこみまわりこみま わりこみまわりこみ

ただし,回り込み中において,align環境などの数式環境内では,¥tyuu*と,アスタリスク付のコマンドを使用します。

—— 一次

← 二次

— 三次

	ああ	あ	ああ	あ	ある	ある	ああ	うあ	ある	あ	あ	ある	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	ある	ある	ある	ある	ある	あす	5 č	あぁ	ā.	5あ	あ	あ	あ
đ,	ああ	あ	ああ	あ	ある	あす	ああ	i あ	ある	あ	あ	ある	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	ある	ある	ある	ある	あ								

61616161616161

上の align 環境内の右注は,回り込みの最中ですから, ¥tyuu*コマンドを用いています。

$$y=x$$
 $y=x^2$ $y=x^3$ $y=x^3$

ここの右注は, mawarikomi 環境内ではありますが, 回り込みは終了していますから, ¥tyuu を用います。ここで mawarikomi 環境が終了します。

ええええええええええ

$$y=x$$
 $y=x^2$ $y=x^3$ $y=x^3$

ここは, mawarikomi 環境の外側ですから, ¥tyuu コマンドを用います。

5.5 注釈記号の変更

デフォルトでは,注釈の冒頭に'←'がつきます。この記号を変更するには

\tyuumark{\\$\text{\\$blacktriangleleft\\$^}}

などとします。

- 問題 -

【解答】解答部分は tyuukai 環境内に記述します。そこでは , 右側一部が注釈のための領域となります。注釈冒頭の記号を

¥tyuumark{\$\footnote{\text{blacktriangleleft\$"}}

と変更してみます。

■ 注釈領域です。注釈を付けるには、 ¥tyuu コマンドを用います。

5.6 注記号の局所的変更

 $y = px^2 + qx + r$

¥tyuu による注記号を局所的に変更するには ¥tyuu に [...] オプションをつけます。

あああああああああああるここで ¥tyuu コマンドによる注をつけます。注の先頭には、 \longleftarrow がつきます。これを変更するには、¥tyuumark コマンドを用いますが、局所的に変更するために、¥tyuu に [...] オプションを付加可能としました。ここでは¥tyuu [~] $\{\ldots\}$ として注記号を局所的に変更しています。この記号が局所的であることを確認するため、ここで再度 $\{tyuu\}$ 、}を発行します。

← 注釈です。

注記号の変更

ます。

← 注記号はデフォルトに戻ってい

このオプションによる注記号の局所的な変更は別行立て数式環境内でも有効です。

下の例では,式②に ¥tyuu[~]{...}として,注記号の局所的変更を指定しています。他の式には ¥tyuu{...}としていますから,デフォルトの注記号が使われます。

 $y = ax + b \qquad \cdots$

..... ②

← 一次関数

二次関数

← 三次関数

5.7 ¥tyuu と数式番号, ラベル

5.7.1 ¥tyuuと¥notagの同居

数式番号を付与する環境において,数式番号を付与しない行には,¥notagをつけますが,その 行に ¥tyuu もつけるときは

------ ¥tyuu の<tag=notag>オプション ---

\tyuu<tag=notag>\{\ldots\\}

とします。

¥begin{tyuukai} あああああああああああああああああああああ ¥begin{gather}

¥sin x¥tyuu{イイイイイ}¥¥

¥cos x¥tyuu<tag=notag>{ウウウウウウ}¥¥

¥tan x¥¥

¥log x¥notag

¥end{gather}

¥end{tyuukai}

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本										
文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文										
ああああああああああああああああああああああ										
あああああああああああああああああああああああああ										
ああああああああああ										
$\sin x$ ①	← 111111									
$\cos x$	← ウウウウウ									
$\tan x$ ②										
$\log x$										
C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1										
本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本										
文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文										

5.7.2 ¥tyuuと ¥atag の同居

逆に、数式番号を付与しない環境において、数式番号を付与したい行には ¥atag をつけますが、 ¥tyuu も付けたいときは

とします。

Toyaa oo tag adag oo a oo a oo a oo a oo a oo a oo
文本
本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文
¥begin{tyuukai}
ああああああああああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああ
¥begin{gather*}

¥sin x¥tyuu{イイイイイ}¥¥

¥cos x¥tyuu<tag=atag>{ウウウウウウ}¥¥

¥tan x¥¥

¥log x¥atag

¥end{gather*}

¥end{tyuukai}

文本文本文本文本文本文	文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本 【本文本文本文本文本文本文本文本文本文	
あああああああああある	。 ああああああああああああああああああ	
ああああああああああ		
$\sin x$		
$\cos x$	①	\longleftarrow לללללל
$\tan x$		
$\log x$	②	
U 1 U 1 U 1 U 1 U 1 U 1 U 1 U 1 U 1 U 1	1616161616161616161616161616161	
61616161616161616161616	16161616161	
本文本文本文本文本文本	文本文本文本文本文本文本文本文本	本文本文本文本文本文本文本文
文本文本文本文本文	文本文本文本文本文本文本文本文本	本文本文本文本文

5.7.3 ¥tyuuと¥labelの同居

¥tyuu を付与した行にラベルをつけたいときは

¥tyuu<label=ラベル名>{.....}

とします。

¥tyuu の <label=>オプション ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー</label=>
本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文
本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文
<pre>\text{Ybegin{tyuukai}}</pre>
ああああああああああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああ
<pre>\text{Ybegin{gather}}</pre>
¥sin x¥tyuu <tag=notag>{\lambda\dagand</tag=notag>
¥cos x¥tyuu <label=e1>{ウウウウウウ}¥¥</label=e1>
<pre>\tan x\text{label{E2}\text{E2}}\text{\text{\text{E2}}\text{\text{\text{\text{F}}}}\text{\tin}\text{\tex{\tex</pre>
¥log x¥notag
\{\text{Yend}\{\text{gather}\}\}
¥eqref{E1}, ¥eqref{E2}において,
6 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16
6 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16
<pre>\{\text{tyuukai}\}</pre>
本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文
本文

本文本文本文本文本文本文本	本文本文本文本文本文本文本文本文	文本文本文本文本文本文本							
文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文									
ああああああああああある	ああああああああああああああ								
あああああああああああある	。 ああああああああああああああああ								
ああああああああああ									
$\sin x$									
$\sin x$		← 111111							
$\cos x$	①	← ウウウウウウ							
$\tan x$	②								
$\log x$									
(1), (2)において, いいいいい	0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10								
6 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	16 16 16 16 16 16 16 16 16 1								
本文	本文本文本文本文本文本文本文	文本文本文本文本文本文本							
文本文本文本文本文本文	文本文本文本文本文本文本文本文 本文本文本文	本文本文本文本文							

5.8 左注

¥tyuu は右欄外に注釈をおきますが,左欄外に注釈を置くには ¥HidariRangai を用います。 emathAt で用いていた ¥hidarityuu も ¥HidariRangai と同値なコマンドとしてありますから,こちらを用いることもできます。

- 問題 -

【解答】解答部分は tyuukai 環境内に記述します。そこでは , 右側一部が注釈のための領域となります。

次に左欄外に注をつけてみましょう。

ただし,右欄外の注が本文幅の中に入るのに対して,左欄外の 注は本文外に入る仕様としてあります。

前節までの例では,左罫線は引きませんでした。これを引くには

¥hidarityuukeisentrue

と宣言します。

左欄外に注釈を つけるコマンド

が ¥hidarityuu

です。

5.9 行頭,左欄外にマーク

左欄外にマークだけをつけたいときもあります。そのためのコマンドが

¥gyoutou

です。

問題

注釈領域です。注釈を付けるには, ¥tyuu コマンドを用います。

段落の先頭で,行頭にマークをつけてみます。この行の冒頭 には

¥gyoutou{¥P}

と記述してあります。

1 この行はインデントをつけずに , 1 を欄外につけています。この 場合は

¥gyoutou{¥fbox{1}}

としてあります。

こしてめります。 右欄外の注釈をつけるコマンド ¥tyuu と ¥gyoutou を併用する ことも可能です。

5.10 具体例

次の具体例は, sampleAt.tex とほとんど同じですが, ¥tyuu の使い方 — 特に縦位置の調整が楽になっています。ソースリスト ex21.tex をご覧ください。

----------- 重複順列 ---

次の 4 種類の数字を用いて,3 桁以下の正の整数はいくつ作れるか。ただし,同じ数字を繰り返し用いてもよいものとする。

(1) 1, 2, 3, 4

(2) 0, 1, 2, 3

【解答】

 $(1)\ 3$ 桁 , 2 桁 , 1 桁の整数は , それぞれ 4^3 個 , 4^2 個 , 4 個ある から , 全部で

 $4^3 + 4^2 + 4 = 84$ (個)

(2) 3 桁の整数は,百の位には0 以外の数字がくるから,百の位の数字の選びかたは3 通り。十,一の位は4 種類の数字のどれでもよいから,その選びかたは 4^2 通り。

よって、3 桁の整数は $3 \times 4^2 = 48$ (個)

同様にして ,2 桁の整数は $3 \times 4 = 12$ (個)

1 桁の正の整数は 3(個)

ゆえに,3桁以下の正の整数は 48+12+3=**63**(個) ← 数字に 0 を含むときは要注意! 最高位には 0 を置けない

← 十の位の数字の選びかたは 0 以 外の 3 通りで , 一の位は 4 種類 のどれでもよい。

三角方程式・不等式・

 $0^{\circ} \le \theta < 360^{\circ}$ のとき,次の方程式,不等式を解け。

- $(1) \cos 2\theta 3\cos \theta + 2 = 0$
- (2) $\sin 2\theta > \cos \theta$

【解答】

(1) $\cos 2\theta = 2\cos^2 \theta - 1$ を等式に代入して整理すると $2\cos^2 \theta - 3\cos \theta + 1 = 0$

$$2\cos \theta - 3\cos \theta + 1 = 0$$

ゆえに
$$(\cos \theta - 1)(2\cos \theta - 1) = 0$$

よって
$$\cos \theta = 1$$
 または $\cos \theta = \frac{1}{2}$

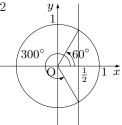
 $0^{\circ} \le \theta < 360^{\circ}$ であるから

$$\cos \theta = 1$$
 のとき $\theta = 0^\circ$

$$\cos \theta = 1$$
 ගිරිප් $\theta = 0$ $\cos \theta = \frac{1}{2}$ ගර්ප් $\theta = 60^{\circ}$,

 300°

ゆえに $heta=0^\circ,\,60^\circ,\,300^\circ$



 $\longleftarrow \cos \theta$ だけの式に変形する。

$$\longleftarrow \begin{array}{c|cccc} 1 & \longleftarrow & -1 & \longrightarrow & -2 \\ \hline 2 & & -1 & \longrightarrow & -1 \\ \hline 2 & & 1 & & -3 \end{array}$$

 $\longleftarrow \cos \theta = \frac{1}{2}$ についての参考図

(2) $\sin 2\theta > \cos \theta \text{ bs}$

$$2\sin\theta\cos\theta > \cos\theta$$

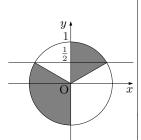
ゆえに
$$\cos\theta(2\sin\theta-1)>0$$

よって
$$\cos \theta > 0$$
, $\sin \theta > \frac{1}{2}$

または
$$\cos \theta < 0$$
, $\sin \theta < \frac{1}{2}$

 $0^{\circ} \le \theta < 360^{\circ}$ であるから

$$30^{\circ} < \theta < 90^{\circ}, \ 150^{\circ} < \theta < 270^{\circ}$$



 $\leftarrow AB > 0$ $\iff A > 0, B > 0$ または A < 0, B < 0

------ 角の二等分線

 $\triangle ABC$ において,AB=5,AC=3, $\angle A=120^\circ$ とする。 $\angle A$ の二等分線と BC との交点を D とするとき,次の線分の長さを求めよ。

(1) BC

(2) BD

(3) AD

【解法の手順】

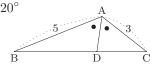
- 1 余弦定理を用いて, BC を計算する。
- 2 角の二等分線の性質より, BD を求める。
- 3 面積を利用して, AD を求める。

【解答】

1 (1) 余弦定理より

BC² = AB² + AC² - 2AB · AC cos 120°
=
$$5^2 + 3^2 - 2 \cdot 5 \cdot 3 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right)$$

= 40



 $\blacktriangleleft \cos 120^\circ = -\frac{1}{2}$

BC > 0 であるから BC = 7

2 (2) AB: AC = BD: DC であるから

$$BD:DC=5:3$$

よって BD =
$$\frac{5}{8}$$
BC = $\frac{35}{8}$

$$\frac{1}{2} \cdot 5 \cdot 3\sin 120^{\circ} = \frac{1}{2} \cdot 5x\sin 60^{\circ} + \frac{1}{2} \cdot 3x\sin 60^{\circ}$$

よって AD =
$$\frac{15}{8}$$

- ◀ 二等分線と比例の関係
- ◀ 面積に関する等式

$$\blacktriangleleft \sin 120^\circ = \frac{\sqrt{3}}{\frac{2}{2}}$$
$$\sin 60^\circ = \frac{\sqrt{3}}{2}$$